

まゆだま

2012. 1. 6. 発行
No. 351



連絡先：高田（榎原小学校）
東京歴教協 八王子支部

～ 震災の年、被爆の年は「絆」を感じ合う一年間でした。その絆をさらに広げて新しい絆へと、人と人がつながりあう社会を目指して、2012年が始まります。今年も会員の皆様が健康第一で過ごせますようお祈り申し上げます。事務局一同。～

11月の例会報告：6年生の社会科授業・計画

報告者：高田 真澄さん（八王子立榎原小学校）

授業時間数の制限の中で、教科書だけでなく、地域教材の活用や人との出会いをどう授業していくか。これは多くの先生方の悩みでもあります。今では事務局長を務める高田さんも、若いうちから歴教協で学んできたことを実践し、また工夫し、そして後進に伝承するために、授業実践を重ね、例会で学び、今日のような年間計画を作り上げてきました。そのことは、特に6年生の授業計画を見ればよく分かります。今日の報告は、そんな高田さんの教師生活の歴史そのものでした。私達の研究活動は、こうした実践家によって高められていくのです。以下は、先輩からの感想です。

■高田先生の社会科教育にかける並々ならぬ想いが凝縮した、厚みのある実践報告だったと思います。まず、総合や道徳の授業を視野に入れた緻密な年間計画を立てて、実践を進めてこられたこと。授業に体験学習や人物を取り扱うことが可能となり、子どもの活動や興味を増したことでしょう。若い教師も是非取り入れてほしいところです。更に、地域の教材を積極的に授業に取り入れていること。榎原地域の縄文時代や八王子城、八小にある青い目の人形、そして八王子空襲など。八王子歴教協の蓄積を踏まえつつ、自身で開発したオリジナルな教材も含め、1時間ごとの授業をより分かりやすく、質の高い授業を目指している高田先生にベテラン教師の姿勢を強く感じました。これらの実践や資料を是非若い教師に伝えてほしいと思います。

八王子の地域の史実は、こうした努力の積み重ねで「授業用教材」となったのです。



いつも温かな眼差しで、例会を支えてくれる高田事務局長（右端）のおかげで、また今年も、ひな鳥が巣立っていくように独り立ちする若手教師が増えることでしょう。地域教材の掘り起こしに、オリジナル教材にと、単に指導書とにらめっこだけでは決して作り上げることができない授業を今後も私たちにたくさん伝えてくださることを期待しています。感謝です！！

12月の例会報告：高校社会科授業の実践報告

報告者：若林 徹さん（都立 八王子拓真高校）

学校の特性上、学習意欲や基礎学力があまり定着していない生徒も多く、そこで働く教師も厳しい現実に向き合わされます。そんな生徒達を相手に、ビジュアル教材を駆使しながら「教師が物語る授業」を目指した、授業実践報告がなされました。

12月例会に参加した皆さんの感想 ～順不同～

- 10数年間、社会（学校？）のすみっこで生きてきた子ども達をこんなにも興味を持ち前向きに頑張る子に育てられた若林先生の情熱に感動しました。
- 子ども達が授業に感情移入し、自分のこととして考えるようにならなくては、面白い授業にはならない。その点で、若林先生はあるテーマの中に、登場人物を設定し、先生自身が熱く語っている。その工夫と情熱が授業にとって大切であると再認識できました。
- ビデオ映像にしても、全部を見た後で、ではなく途中で止めて用語や背景の解説をしていく。子ども達の日誌や学習ノートからも授業が楽しいことがよくわかりました。教材を工夫して与えて行く授業に圧倒されました。
- 教師は教材研究をし、資料を作り、授業の準備をするわけですが、それらをどんなにやっても授業として必ずしも成立するわけではない。しかし、授業準備をしなければ絶対に良い授業というのは成立しないことを感じました。
- どうしても世界史などは暗記物のように思えるし、外国の遠い話のように感じてしまうが、若林先生のような授業なら、深く考えると思いました。
- いつも教材が面白く、マンガやビデオをフル活用する先生の教材の作り方を参考にしています。方法論的には小学生にも使える方法かなあと感じました。

<被災地(宮城県仙台市周辺)の今:12月末>

前に実家が被災した支部会員の報告を掲載しましたが、震災から9ヶ月経った12月の末に、数名で仙台周辺の被災地を巡りました。現地の今の様子を報告します。



左の住居の塀をよく見ると、3分の2の高さまで津波が来ていることがわかります。海から2km以上離れた住宅街の9ヶ月後です。下の写真は未だに撤去できないガソリンスタンドの残骸、誰もいなくなった小学校の教室、ポールが同じ方向に曲がったままの展示場、車のがれき置き場になった小学校校庭、直せない体育館、などそのままになっている写真です。「復興」という言葉はまだ使えない現地です。



← JR常磐線坂元駅は、津波で流されたままです。←



町が全て流された閑上地区



9ヶ月経った被災地。「何も無い」のです。駅舎が、線路が、住居が、町が、無いのです。本当ならあるはずのない船が、海岸から数キロも離れた民家の前に…今も尚、「ある」のです。

— 1月例会のご案内 —

1月例会:「6年生の歴史の授業を考える」

日時: 2012年1月21日(土) 14:00~16:30頃

場所: 台町市民センター (JR西八王子駅南口徒歩8分)

報告者: 内藤小夜子さん、小杉雅彦さん(共に、啓明学園初等学校勤務)

内容: 帰国子女の多い私立小学校で6年社会科を初めて教える2年目と、同じ学年を組む中堅が、同じ単元を授業すると、どうなるのか?



…小学生の歴史教育をどう進めていくかを、例会に参加された皆さん全員で考えていきたいと思ひます。報告の後、様々な年代・経験者で意見交換ができればと思ひます。どうぞお誘い合わせの上、またはお一人で、悩みの共有を目指して御参加ください。…

※2月例会は、2月26日の東京歴教協の研究集会参加に振り替え、3月例会はありませんので、2011年度は今回が年度最終の月例会です。**お待ちしております!**尚、**例会後に反省会を兼ねた新年会を近くのお店で予定**しております。お時間の都合がつく方は、ぜひそちらも御参加ください。どうぞよろしくお願い致します。